

四万十市立具同小学校

学校長（ 徳弘 純一 ）印

1. 学校教育目標

学びを楽しむ やさしく かしく たくましく 共に高め合う児童の育成

2. 本校の現状

本校は、学級数16（特別支援学級2を含む）、児童数418名〔平成27年5月1日現在〕、教職員数36名（支援員等含む）の四万十市で最大規模の小学校である。児童数や家庭数が多いなか、児童の実態、家庭環境や保護者のニーズも多様であり、特別な教育的配慮を必要とする児童も複数名在籍している。平成24年度からは、幡多地区で初めての通級指導教室が開設されており、本年度も4名の児童が在籍している。

児童の実態としては、学力面では、全国水準を超える学力状況に到達しておらず、特に、活用学力の形成に課題がある。また、個人差が大きいことや学年が上がるにつれ学習意欲に差がでることも課題として挙げられる。授業スタイルは、以前から算数科で行ってきている問題解決型に加え、国語科においても、単元を貫く言語活動を意識した授業スタイルに移行してきており、研究テーマの「思考力」「表現力」の育成につながる授業ができつつあるが、子どもの実態としては、まだまだ満足できる状態にはない。これには、理解度や定着度の差もさることながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に困難さをもつ児童がいることも少なからず影響していると考えられる。

ここ数年は、教科教育はもちろんのこと、道德教育、人権教育、特別活動、特別支援教育等を学校ぐるみで取り組んできた成果が少しずつ出てきて、学校内では落ち着いて学習や生活ができる姿が見られだした。しかし、教師の目の届かないところでの心ない言動や問題行動は相変わらずある。今後更なる教育課題解決に向けて、具体的な取組方策を策定し、組織的かつ計画的な教育活動に精励していく必要がある。体育・保健的活動も含めた総合的な教育活動全般の充実を果たし、優れた教育活動を創出することで教育効果を上げるべく、全教職員がベクトルを共有し、チーム意識をもって地道に実践しているところである。

また、学校教育目標の実現のために、PTA活動の活性化も図っており、自主的自立的な活動はもとより、いじめ問題をはじめとする教育課題の共有や、家庭の教育力向上につながる取組の創造にも、協働して創意を働かせている。更に、地域は、学校や教育に関心が高く、本校の開かれた学校づくり推進組織（「わたり会」）は、中村西中学校との共同組織になっており、大変に協力的である。昨年度からは、校区の保育所・幼稚園を加えて保・幼・小・中の連携を深化させ、さらには学校・家庭・地域が連携協働して機能するシステムや流れをより円滑かつ効果的に展開できるよう企画推進を図っている。なお、学校通信やホームページをはじめ、学校からの家庭・地域への情報発信や情報提供を積極的に行うことで、本校の教育活動への理解を図り、信頼関係や協力関係を深めるようにしている。

本年度より中村西中学校との連携型で、高知県教育委員会「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」（3カ年指定）の指定を受けることとなり、校内研究テーマを「自ら課題をつかみ 思考し 表現し合う授業づくり」と設定した。指定研究に関わって、昨年度までの「発問と指導過程」を大切にしていけることは継承しつつ、「習得・活用・探究のつながり」を意識してサブテーマの中に盛り込む形で推進していくことにした。児童の実態から、基礎的・基本的な学力・学習習慣の定着を踏まえたうえで、今求められている思考力、表現力といった活用学力の形成、更には探究的な授業づくりの研究実践を目途に、適時適切にPDCAサイクルを機能させながら、本校の強みである授業研究に鋭意取り組み、児童にとっての授業改善と教員にとっての授業力向上を果たしていきたい。

3. 本年度の評価項目

〔1〕学力向上

- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
- ②子どもにわかる授業づくり
- ③予習・復習の質と量を高める取組

〔2〕生徒指導

- ①基本的生活習慣の確立に向けた取組
- ②不登校・いじめへの対応
- ③豊かな心の育成

〔3〕学校・家庭・地域の連携

- ①PTA活動
- ②学校情報の公開
- ③地域との連携

〔4〕その他

- ①特別支援教育の充実
- ②保・幼小中連携教育の推進

4. 自己評価 評価：4段階評価（4 目標を十分に達成、3 ほぼ目標を達成、2 やや不十分、1 改善を要す）

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評価	次年度の方策
〔1〕学力向上	①学力向上のための組織的な研修等の取組	①部会や総合プロジェクトの計画に対する実施率が95%を超える。 ②研究推進委員会を2ヶ月に1回開催する。 ③学校評価アンケートで校内研修の満足度が90%を超える。 ④教育計画に必要な事項を完備。週案提出率100%となる。 ⑤学力調査結果と今後の方向性についての保護者説明会を実施。	①計画実施率は95%とほぼ目標をクリアできた。目指す方向を明確にして組織として研究を進めることができた。 ③校内研修の肯定的評価は93.8%であった。指定事業を受け、研究教科や研修機会も増えたが、これからの教育の在り方に関わる学びの多い一年だった。 ④週案提出は100%。週案提出で個々の教員が教育課程を自己管理できた。 ⑤学力調査保護者説明会は9/6に実施した。保護者の関心も年々高まっている。今年度は児童に対して学力状況を説明し、学習のあり方を見つめ直し意欲につなげようとした。	3.4	★研究主題の具現化をめざし、個人がより以上に主題を意識して実践すると共に、各部会が連動しながら組織的に取り組む。達成感や充実感が得られるよう研究・研修方法等も工夫・改善していく。 ★指定事業の中間発表会を2回（教科・総合）実施。情報発信・授業公開すると共に他校の先生と学ぶ合う。 ★テストやアンケート、検査結果等を分析し、焦点を絞った取組を継続。新たな取組も創出し更なる結果の向上をめざす。
	②子どもにわかる授業づくり	①一人年間3回以上の授業公開と30回以上の授業参観を実施する。 ②学期に1回の単元を貫く言語活動を意識した授業実践と国語科授業スタイルを確立する。 ③探究型授業の探究と情報の収集及び共有。 ④市販単元テストで、学年・学校平均ともに85点以上となる。 ⑤学校評価アンケートで、「授業力向上を実感」した教員が90%以上、「授業がよくわかる」。	①授業公開4.6回、授業参観15回。参観回数は目標を下回ったが授業を見合う回数は増え、学び合う教員集団に近づいた。 ②単元を貫く言語活動を意識した授業実践は計画通り実施。算数に続き国語も問題解決型の授業スタイルを確立できた。 ③探究型授業の共有・情報発信は1年次の計画を達成。授業研究や講話等から教科での習得・活用・探究の授業イメージ、総合の探究のイメージが明らかになってきた。 ④市販単元テストは目標をほぼ達成。学校平均で目標を5点上げたが、ほぼ達成するなど昨年度を上回る結果を残した。	3.4	★学習意欲を高める（「～たい」が生まれる）授業、活用・探究型の授業づくりを進め、指導過程や発問の研究を踏まえて各学年で具現化する。エバーサルスザインの授業づくりも継続する。 ★生活科・総合的な学習の時間の授業の質的向上を図る。小中で連携し、生活・総合9年間のカリキュラムを確定する。 ★学習規律を全校で統一・徹底すると共に、「書く・表現する」、「理由・根拠」を明確にして述べる力を高めるため、全学年で共通した指導、系統的な指導を検討し具体的に実施する。 ★日々の授業の中で活用問題を意識
	③予習・復習の質と量を高める取組	①家庭学習アンケートで、「1日の家庭学習時間で、(目標:低30分、中45分、高60分以上)を超えた児童が全学年で85%超。 ②「前の学年より自主学習を頑張っている」児童が80%を超える。 ③モデルとなる自主学習ノートをも1回以上展示	①家庭学習時間の達成率は、低学年89%、中学年88%、高学年78%であり、自主学習を昨年より頑張っている児童は89%となった。高学年の家庭学習習慣に課題が見られる。家庭学習の習慣化と質は学力の獲得に重要である。授業との連動、意欲の高揚など家庭学習の取組を更にレベルアップさせる。 ②自主学習ノート展示は2学期間で4.1回と目標を下回った。	3.1	★帯タイムの内容の更なる充実をめざすと同時に、外部講師の招聘も踏まえ、放課後加力指導を確実に実施、基礎学力の定着をより確かにする。 ★家庭学習と連動した授業実践を行う（終末に次時の課題確認→予習による意欲持続→自ら課題をつかんでの学びへ）
〔2〕生徒指導	①基本的な生活習慣の確立に向けた取組	①保健指導及び保健朝会の実施率100% ②「いきいき生活カード」事前・事後指導3回実施 ③「いきいき生活カード」で起床時刻(目標:全学年6:30)が85%、就寝時刻(目標:低9:00、中9:30、高10:00)が	①早寝早起き、手洗い等、望ましい生活習慣確立に向け保健指導及び保健朝会を実施。率は100%だった。 ②いきいき生活カードは5・9・11・1月で実施。4回とも事前・事後指導を行い子どもへの指導と保護者への啓発を行った。 ③起床時刻84%、就寝時刻75.3%でどちらも目標を下回った。特に低学年に課題があり、保育所や幼稚園にも働き	2.9	★就寝時刻を始めとする生活リズムについては、保幼小中が連携して取り組み、結果を共有して互いの取組に活かし、児童の生活の改善を目指す。 ★保護者への啓発と連携に努めると共に、児童の自己指導能力の育成に重点を移し、日々の声かけ、生活アンケートの事前・事後指導等の充実、委員会活動等の児童主体の取組の推
	②不登校・いじめへの対応	①道徳アンケート(高学年)で自尊感情に関する肯定的評価90%超。 ②学校生活アンケートで「嫌なことをされた経験」がある児童が30%以下となる。 ③いじめ防止対策委員会を年6回以上開催。	①道徳アンケート「よいところがある」64.2%、「難しいことでも挑戦」86.9%であった。自尊感情は高学年になるほど低くなる傾向は変わらない。 ②36.8%が「嫌なことをされた経験」がある。学校生活アンケート後の全校いじめ授業の実施を含め人権学習を計画以上実施。 ③いじめ防止対策委員会開催は3回だが早期解決に向け実施する取組はでき	2.7	★授業や生活の中で「君・さんで呼ぶ」「温かい言葉遣い」を指導する。 ★「ほめ言葉のシャワー」等、肯定的な風土づくり・仲間づくりに努める。生徒指導の3機能を活かした授業や諸活動を通じ、自己・他者肯定感を高める。 ★いじめ等については、日常観察と指導、上級学習、学校生活など、第
	③豊かな心の育成	①道徳授業を完全実施 ②道徳プロジェクト学習会を計画的実施(8回程) ③学校評価アンケートで「あいさつ・安全・後始末・集まり・遊び」に関する肯定的評価80%超。 ④学校評価アンケートで、	①②道徳プロジェクトも計画に沿って実施。その学習会が道徳授業完全実施だけでなく教員の意識や授業力向上につながった。 ③学校評価アンケート(教職員)で「5あ」の行動75.5%、「きまり・ルールを守る」行動は67.5%。まだ十分ではないが「あいさつ」は児童会と教員がタイアップし効果的な取組ができ、地域から高い評価を得た。 ④目標に一步届かなかったが「学校が	3.2	★心を育てることはもちろん、思いや考えを伝える力の向上をめざす点からも、道徳授業の重要性を確認し、授業改善に引き続き取り組む。 ★本校の伝統である「5あ」(あいさつ・安全・後始末・集まり・遊び)、「きまり・ルールの遵守」については、職員のベクトルを更に合わせ、児童会執行部や委員会ともタイアップし、継続して取り組む。

〔2〕生徒指導	③豊かな心の育成	①学年目標冊数(低:80冊・中:60冊・高:40冊)を児童の80%が達成。 ②学校図書室やパソコン室を活用した授業実施を全学級で学期に2回以上 ③新聞を活用した授業を4年生以上で年間3回以上実施。 ④国語アンケートで「読書	①学年目標冊数は、2月10日の時点で63.5%と目標値を下回った。取組が奏功し目標を上回る学年もあったが、全体としては目標冊数に届かず課題を残した。 ②学校図書館やパソコン教室を活用した授業は全学級で学期に2回以上達成。ただ、パソコン室の利用は十分とは言えない。 ③新聞を活用した授業は2回だったが新聞記者を招いての授業も行われてきた。	2.6	★読書好きな児童も多く、図書室の環境整備は進んでいる。目標冊数の達成率が9割を超える学年もあり、互いの取組に学びながら、読書の質を上げていく。 ★読み聞かせ、朝読書を地道に続けるとともに、並行読書用図書等を整備するなど、読書環境を更に整える。
	①PTA活動の状況	①PTA執行部会を年間6回開催する。 ②PTA各部会の活動計画実施率95%以上。 ③学校評価アンケートでPTA活動における項目の肯定的評価80%を超える。	①臨時執行部会も入れると、予定通り7回開催した。 ②各部の活動計画は100%実施。特に文化部主催の親子ふれあいイベントはPTA主催で盛大に開催された。 ③全ての項目で80%超。特に情報発信は100%と高評価だった。	3.4	★PTA活動は、各部の部長を中心に主体的な活動ができていますので継続したい。一方で全会員の意識が高いわけではなく、参集率や研修会への参加は低いのが現状である。会の持ち方や作業分担の方法等、改善していきたい。又、会員相互の呼びかけ等で輪を広げていきたい。
〔3〕学校・家庭・地域の連携	②学校情報の公開	①学校のホームページを月2回以上更新する。 ②学校評価アンケートで情報公開に関する保護者の肯定的評価が90%を超える。	①ホームページは学校行事等を中心に、タイムリーな更新をめざし、月3回以上は更新して教育活動を発信してきた。 ②学校評価アンケート(教職員)の「保護者や地域への情報発信」は93.4%の肯定的評価を得た。各種通信や「安心メール」	3.6	★学校の情報については、今後も積極的に公開することで信頼を得るようにしていく。 ★大切な情報交換の場である学級・学年懇談会の参加率が低いことが大きな課題である。「参加したい懇談会」となるよう一層努力していく。
	③地域との連携	①「わたり会」の計画に対する実施率が90%以上。 ②学校評価アンケートで地域との連携に関するわたり会推進委員会の肯定的評価が90%を超える。	①見守り活動が十分機能しなかったが、それ以外は計画していた内容は全て実施できた。わたり会参観日の後の懇談会の参加率が低く残念であった。 ②学校評価アンケート(地域)の「課題を示し、地域と協力」については82.8%と目標値を下回った。	3.4	★推進委員の方々には、家庭科や生活科等で協力いただいております、引き続き、協働した取組を進めていきたい。 ★参観日後の懇談会は、学校にとっても情報や評価を得る貴重な機会であり、参加率が高まるよう工夫していく。
〔4〕その他	①特別支援教育の充実	①校内支援委員会の計画(年間10回)に対する実施率100% ②学校評価アンケートで特別支援教育に関する職員の肯定的評価が90%超。	①校内支援委員会は年間10回実施。学校評価アンケート(教職員)の「会は円滑に運営され、支援方法等、日々の実践に役立っている」は96.5%と高い評価を得た。 ②人権教育と並び「特別支援教育が力量を高めるものとなっている」と評価	3.6	★本校にとって特別支援教育の視点をもって学校経営・学級経営していくことは必須であり、発達障害児の理解と支援、どの子も「わかり・できる」をめざしたユニバーサルデザインの授業づくり等、引き続き研修を深めていく。
	②保幼小中連携教育の推進	①保幼小中交流研修会(年3回)及び各種連絡会を計画的に実施。 ②保幼小中交流研修会アンケートで研修会満足度が80%を超える	①保幼小中交流研修会は今年度も計画通りに実施。指定研究で小中連携がより深まった。内容の周知等が十分でなく、保育所、幼稚園の参加が少なかった。 ②職員の研修満足度(3回目)は、81.7%と目標値を超えることができた。	3.4	★保育所・幼稚園への周知を徹底するとともに、協働の取組を進める。 ★指定事業への取組を核に、小中が連携・協働して児童・生徒の学力向上、道徳性の育成と望ましい集団づくり、体力・運動能力向上をめざす

4段階評価(4 目標を十分に達成、3 ほぼ目標を達成、2 やや不十分、1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

◆登下校の際に出会ったとき、元気な挨拶をしてくれるのが何より嬉しく思います。参観するとき、態度が気になる子が居ても、取り立てる程の事でもなく、地域住民として、先生方の努力が報われていると感じています。

◆学校の現状を捉え、評価項目に対し取組内容も多く、評価も上がってきていると思います。引き続き取組をして頂き、今年度の課題解決に向け、次年度も頑張ってください。

◆学力面については、基礎学力を中心に指導しながら、同時に、応用力も身につけさせていけるといいですね。家庭学習の徹底も必要だと思います。

生徒指導面については、朝食を必ずとるような指導をお願いします。親も子どもに言えるような態度、しつけについて、PTAでも取り組めばどうでしょう。また、心を育てる面からも、人権学習を多く取り入れるとどうでしょう。

家庭・地域の連携については、PTAとしても、保護者が参観日にできるだけ参加できるような働きかけが必要ではないでしょうか。土・日の参観日を多くすることも方法ですね。学校としても、学年単位、クラス単位での取組も必要ではないでしょうか。

その他、私は、「1に体力、2に気力、3に学力」だと思っています。学校は、「1に学力、2に気力、3に体力」の指導方針になっているのではないのでしょうか。生きていく上では、まずは体力ではないのでしょうか。

◆きめ細かな指標と計画的な実践及び進捗管理により、充実した教育活動が展開されている様子が伺えます。特に学力向上と学校・家庭・地域の連携に関しては、成果も多く見られます。先生方の授業改善や学力向上に向けた取組と、保護者・地域の学校教育への満足度は高いように思います。子どもの学びや生活の基盤となる心の育成について、学校も課題意識を感じているようですが、校区の子どもたちを連携して育て、今後も小中のつながりを深めていけたらと思います。